

性被害防止の授業プランに関する一考察

吉村 亜沙子¹⁾ 坂田 利弘²⁾

1) 愛知教育大学大学院教育学研究科保健体育専攻 2) 愛知教育大学保健体育講座

A Teaching Plan for Protecting from Sex Crime

Asako YOSHIMURA¹⁾, Toshihiro SAKATA²⁾

1) Graduate school of Aichi University of Education

2) Aichi University of Education, Department of Health and Physical Education

Key words: 性被害の防止, 性意識, 性の授業

1. はじめに

近年、携帯電話をはじめとするインターネットを介して起こる犯罪(=サイバー犯罪)の件数が増加してきている。¹⁾ そのような犯罪は特に携帯電話を介した出会い系サイトに関連して起こっている。²⁾ その犯罪傾向をみると主に成人男性による18歳未満の少女らへの性犯罪が多くみられる。³⁾ しかし、学校での保健指導・保健学習では、性被害の防止のねらいとして、「・性犯罪が多く起こる時間帯である夜に出歩かない、・露出をひかえる」など表面的に心がけるべきことが中心で、完全に自己防衛のできるサイバー犯罪についてはあまり触れていない。⁴⁾ この完全に防げるサイバー犯罪というのは未成年を含む携帯所持者自身が、出会い系サイトなどの「事件に巻き込まれる危険性のあるものにかかわらない」ということである。インターネットを日常的に利用する人の中でも、特に、現在の中高生は彼ら自身のホームページを持っていることが多く、そこでは不特定多数の人たちが閲覧でき、ほぼ自由にメッセージを残すこともできる(掲示板の利用)。また、それらのページには広告収入をねらった、電子コミックや成人向けの出会い系サイトなどの広告も存在し、未成年である彼らには、それらを利用することで生じかねない不利益を判断することは難し

い。一方で、携帯電話の利用に関して疎い大人もこの仕組みを説明することは困難である。今日では、インターネットの利用が日常的に行われている。このことを踏まえ、どの世代においても携帯電話を持つということで、携帯電話を使って行う他者との些細なやり取りが犯罪につながりかねないということを知っておかなければならない。

そこで、現在の性犯罪の実態に合った「性被害防止」の授業プラン作成を目指し、本論では、①近年、増加傾向にあるインターネットに関連した性犯罪、②中高生の身近にあるインターネット接続ツールである携帯電話の利用方法の実態、の2点に着目し、どのような仕組みでサイバー犯罪に発展してしまうのかが理解できる授業プランの作成を目的とする。

2. 性犯罪の実態と「性被害防止」の授業実践

1) 性犯罪の実態

警察庁によると、出会い系サイトの数は推計約5千。同サイトを利用し、児童買春などの犯罪に巻き込まれた18歳未満はここ数年、1,000人を超えている。⁵⁾ 平成18年は1,153人で、99%以上が少女だった。⁶⁾ また、被害者の95%以上が携帯電話からサイトに接続していた。18歳以上か否かを自主申告で選択するなど年齢確認が形骸化し、サイト事業者の実態把握も難しいことが被害発生に

つながっているとみられる。

								(人)
		H16	H17	H18	H19	H20	H20 上半期	H21 上半期
被害者数		1,289	1,267	1,387	1,297	852	420	319
	携帯電話	96.1%	96.0%	96.5%	96.8%	98.7%	98.3%	99.4%
	パソコン	3.9%	4.0%	3.5%	3.2%	1.3%	1.7%	0.6%
	うち児童	1,085	1,061	1,153	1,100	724	356	266
	携帯電話	96.4%	96.4%	96.6%	96.5%	98.6%	98.3%	99.2%
	パソコン	3.6%	3.6%	3.4%	3.5%	1.4%	1.7%	0.4%

出典：警察庁(広域資料) 平成 21 年 8 月 6 日

被害者(被害児童)の出会い系サイトへのアクセス手段(表1)¹⁾

2) 現在の中高生の携帯電話の利用実態

現在、中学生のほとんどが自分で自由に使える携帯電話を所持している。主に、家族や友人との連絡をとる手段として使われているが、中には携帯のサイト上で出会った人と連絡を取っている生徒もいる。その多くは、インターネットを自由に使える環境にあり、携帯電話会社によるアクセス制限を利用している生徒はまだ少ない。サイトの使用頻度もまちまちで、ほぼ毎日利用する者から月に1回程度の者までさまざまであるが、割合としては週に1回以上利用する者がほとんどである。中には、親からの制限でアクセスを禁止されているケースも存在する。

また、アンケートによれば、生徒の多くは携帯電話がさまざまなトラブルに巻き込まれやすいことを理解しており、どのようなことが危険につながるのか、携帯電話を利用するにあたってどのようなことに気をつけたらいいかをまとめさせるきっかけはつかみやすいだろう。一方で、サイト上で面識のない人と「付き合う」という状況があり非常に理解し難い。サイト上で付き合っていると話す子どもの一人は、「サイト上での彼とのやり取りを独占できることが嬉しいと感じる」と言っている。先日、成人女性が面識のない男性に5年間も会社のお金を不正に手に入れ送金していたという事件も発覚している。インターネットが普及する現在、男女の交際のあり方に対する意識も変化してきていると考えられる。

【アンケートの実施概要と結果】

- 対象：愛知県内H中学校 2年生2クラス
計68名
- 調査方法：質問紙に選択回答と自由記述

3. 結果

- i) 携帯をもっている はい 55人(80.9%)
いいえ 13人(19.1%)

ii) いつからもっているか

- 小学校低学年 5人
小学校4年生 4人
小学校5年生 8人
小学校6年生 18人(26.5%)
中学校1年生 13人(19.1%)
中学校2年生 7人

- iii) 誰と連絡を取るか 友人 52人
(複数回答可) 家族・親戚 50人
サイト上の友達 3人
必要な時 2人
知り合い 1人

iv) どんなサイトを利用するか

- 音楽(着うた・着メロなど) 28人
ゲーム(無料有名サイト7人含む) 14人
画像(待受など) 12人
HP(自分や友人が運営するものも含む) 10人
小説 7人
利用しない 13人
制限があるためHPにアクセスできない 1人
その他少数回答
…公式サイト(アニメ・ゲームソフト・飲食店・芸能人)、占い、天気、辞書、無料の掲示板サイト
など

V) 携帯電話の良い点・悪い点

＜良い点＞

- i-はい
・メール・電話で連絡が取れる
・便利
・多機能
i-いいえ
・連絡が取れる
・持ち運びができる

＜悪い点＞

- i-はい
・チェーンメールがくる
・お金がかかる
・トラブルに巻き込まれやすい

- ・知らない人やサイトからメール・電話がくる
- ・電源が切れる
- ・落とすと危険（個人情報など）
- i - いいえ
- ・お金がかかる
- ・トラブルに巻き込まれやすい
- ・事件がある

3)「性被害防止」授業実践と問題点

今回の「性被害防止」授業の実践は、日本性教育協会「性教育 新・指導要項 解説書」（以下性・指導要項）を参考にしたものが多くみられ、その内容は犯罪の件数や発生状況といった表面的な実態を捉えさせているものであり、生徒たちにとって身近なものとは感じられにくい。⁴⁾ また、生徒たち自身も授業の取り組みから何を学んだのか、何を学ぶべきだったのかなどねらいが理解しづらいものとなっている。筆者が参観した授業も、グラフや表で数値を目で見ることによって性犯罪に関する情報を読み取ったり、性被害にあった女性からの手紙を読むことで被害者の心情を理解したりするというものであった。これは生徒たちの身近に迫る危機として取り扱われているとは言えないものであった。

以上の指摘を踏まえると、「教授内容を膨らませすぎない」、「性犯罪のきっかけにつながるような身近に起こりそうな犯罪の方法を指摘する」、「生徒と一緒に内容を吟味する」ということなどを改善していくことが求められる。今日、携帯電話などからの出会い系サイトを利用した犯罪は、警察庁によれば検挙件数のピークは過ぎたものの、出会い系サイトへのアクセス手段として携帯電話を使用した被害児童は95%を超えている。このことに着目し、授業では、出会い系サイトに関連した事例を扱うことで、第三者的ではなく、本当に起こりそうなシチュエーションを示すことができ、サイバー犯罪が自分自身の問題として考えなければならないということを認識させることが重要である。さらに、何が犯罪につながってしまうのかを教師と生徒で議論しながら細かく追求していくことで、生徒自身が自ら気づき自分のこととして考えることができ、今後の意志決定力・判

断力を養う手助けとなるようにすることができる。

3.「性被害防止」の授業プランーそのクリック大丈夫?!ー

近年、性犯罪の多くが携帯電話等からの出会い系サイトの利用と関連している。現在、中学生の多くが携帯電話を所持しており、さまざまなサイトを自由に利用し多くの情報に触れている。総務省は、平成18年11月に携帯電話・PHS事業者と電気通信事業者協会に対する携帯フィルタリング導入の取り組み強化を要請した。⁸⁾

現在、子どものモバイルインターネット利用には原則フィルタリングサービスが適用されている。(1) 携帯電話会社の公式サイトから、有害の恐れのあるサイトを排除し、残ったサイトの閲覧を許可する「ホワイトリスト」、(2) 一般サイトを含め、有害情報サイトだけを遮断する「ブラックリスト」——の2方式がある。しかしながら、双方とも問題点は指摘されており、ホワイトリスト方式については健全な一般サイトまで利用できなくなる恐れがあり、また、ブラックリスト方式についても、増え続ける排除の対象となるすべてのサイトを確認することが難しいという点である。^{9) 10)} やはり、フィルタリングサービスだけに頼らず、利用者自身の情報を見分ける力は必要であると言える。

(参考: http://stuvvxyz.cocolog-nifty.com/blog/2008/01/post_776d.html2010.1.24現在)

しかし、さまざまな情報が氾濫する中、子どもたちをインターネットや携帯電話の利用から遠ざけるのではなく、間違った利用が犯罪につながっていく仕組みを知り、それらの情報を見分ける力を培う必要がある。それとともに正しく利用していくにはどうしたら良いのか生徒自身が決め、日頃から生徒同士で注意を喚起できる環境を作ること、被害防止につなげる1歩としたい。

授業プラン

【指導のねらい】

携帯電話を利用した性犯罪が起こる背景を知り、性犯罪による被害を防止する態度・判断力を

培う。

【準備】

- ①カード「携帯電話」 ②勧誘広告カード「登録無料 クリック」 ③ニュース記事
- ④「これからの自分」を記入するプリント

【指導シナリオ】

T：「携帯電話」というカードを提示，黒板に貼る]

今日は，携帯電話に関わるお話をしていきたいと思います。早速ですが，みんなは「携帯電話」という言葉を聞いてどんなことが思いつきますか？

(→意見が出にくい場合には，携帯を持っていたり，日頃どんなことに使っているかなど助言したりしてもよい。)

- C：小さいし持ち運べて便利
- C：個人情報
- C：メール・電話ですぐに連絡が取れる
- C：料金が安い
- C：多機能
- T：そうですね。いろいろな事が思いつきますね。みんなは携帯電話に関して，良いイメージがたくさんあるみたいですが，携帯電話のことで何か不安なことや心配事がある人はいませんか？
- (→生徒自身が携帯電話を持っている・持っていないに関わらず思っていることを発言するように促す。)
- C：落としたときに個人情報が危ない。
- C：知らない人やサイトからメールが来る。
- C：いろんなインターネットのサイトがあって，見たくないところにアクセスしてしまうことがある。
- T：では，みんなはインターネットを利用したことがありますか？ある人はどんなサイトを利用しましたか？
- C：無料のゲームができたり着うたのダウンロードができたりするサイトとか
- C：待受のダウンロードができるサイトとか
- C：ケータイ小説が読めるサイト
- C：占いのサイト
- T：いろいろできるのですね！では，そのサイト

はどうやって知ったのですか？

- C：テレビのCMで知った
- C：友達に教えてもらった
- C：自分で適当に見つけた
- T：利用してみてどうですか？
- おもしろいことばかりですか？
- C：使いすぎて料金が高くなって親に怒られた
- C：無料のサイトを登録したらメルマガたくさんきてウザイ。
- T：そうだね。なかなか問題なく利用していくことって大変ですよ。

携帯電話を使うことは便利で楽しい反面，少し不便なことや心配なこともありますよね。では，ここで携帯電話に関連したあるニュースの記事があります。読んでみましょう。

[ニュース記事のプリントを配布] ⁷⁾

2007年11月27日

北海道警旭川東署は27日，で，陸上自衛隊第2師団の3等陸曹，容疑者(27)を逮捕した。

調べでは，容疑者は8月26日，旭川市内のホテルで中学2年の女子生徒2人＝いずれも13歳＝に現金を払う約束をし，いかがわしい行為をした疑い。容疑を認めている。容疑者は2人に実際には現金を払わなかったという。

容疑者は2人と同じ中学校に通う中学3年の女子生徒(14)と携帯の出会い系サイトを通じて知り合い，紹介してもらったという。

T：この記事を読んでどう思いますか？

(→意見が出なければ，「どのような事件に巻き込まれてしまったのか？」など事件の背景を探るような助言をする。)

- C：犯人が悪い。
- C：犯人にだまされた。
- C：よくわからない。
- C：お金につられたのが悪い。
- T：では，なぜこのような事件が起こってしまったのだと思いますか？グループで相談してみましょう(2分間)

→うまく回答が出なければ，事件のきっかけが何だったのなど助言をする。

C：友達で紹介でもよく知らない人についていっ

たのが原因。

C：出会い系で知り合った人を紹介した女の子が原因。

T：きっとたくさんの原因が重なって起こった事件だと考えられます。では、事件のヒントとしてこのようなものがあります。
「登録無料 クリックするだけ」黒板に貼る。
なぜ、これがヒントになるのでしょうか？

C：…。(様子をうかがう)

C：そのサイトが出会い系だったから。

T：例えば、無料でゲームが楽しめて、さらに小説やコミックが読み放題のサイトだったらみんなは登録しますか？

C：…。(様子をうかがう)

C：登録すると思う。

C：今、他のサイトに登録しているからしない。

T：このサイトでは、登録するとゲームができるだけでなく、自分のパスワードでしかいけな自分専用のページと誰でも見ることができる登録した人、要するに自分のことを紹介するページももらえます。他の人はその人に向けてメッセージを送ることもできるし、反対に誰かにメッセージを送ることもできます。

そういうサイトがあることを知っていますか？

C：知っている。

C：知らない。

C：使ったことある。

C：今、使っている。

T：こういうサイトを利用して、みなさんと同じような年齢の人が犯罪に巻き込まれています。ニュースで見たりして知っているよね？でも、自分とは関係ないと思っていませんか？ 利用したことがある子もない子も自分のこととして考えてくださいね。

例えば、先ほどの事件の被害にあった2人をAさん・Bさん、紹介した人をYさんとしましょう。

AさんBさんは仲良しで、Yさんは2人の先輩でとっても信頼している人だとしましょう。Yさんが犯人と付き合うことにしたのは、付き合うことで、サイト上で犯人のことを独占できることが嬉しかったからだそうです。犯人はYさんにはいつも優しく、メールや電話で悩み

を聞いてくれていました。そんな時、たまたま後輩で悩みのある2人に相談を持ちかけられ、軽い気持ちで「悩みを聞いてくれるよ」と、犯人のことを紹介してしまいました。Yさんにはいつも優しいということを聞いていたAさんBさんは、犯人からの誘いにのってしまい、今回の事件に至りました。

→クラスの生徒を例にして話してみてもよい。

C：だまされちゃう。

C：怖い。

C：Y先輩のことは信頼していたんだから騙されるかも…。

T：みんなが一生懸命だまされないようにしていても、信頼できる友達がだまされてしまったらこういう犯罪につながってしまうこともあるのです。だから、自分がだまされないように、誰かをだましてしまうことにつながらないように、安易に知らない人とコミュニケーションをとることについて考えてほしいと思います。特にサイト上の顔の見えない、表情の見えない人はどうでしょうか。少し考えてみて下さい。友達とも相談してみてください。

C：言葉だけしかわからないから惑わされてしまいそう。

C：今までそういう風に考えたことがなかったから気をつけたい。

T：今日の授業を聞くまでにサイトで知らない人と連絡を取ったり会話をしたりしたことのある人、これからそういう可能性のあった人、そういうサイトがあることを知らなかった人、いろいろだと思います。これから自分はどうしていきたいか考えて、「これからの自分」のプリントに書いてみてください。友達と相談してもいいですよ。

C：「これからの自分」を書く

T：

「これからの自分」を記入したプリントをもとに、今後、自分たちが性被害、特に携帯電話を利用した事件に巻き込まれないようにするにはどうしたらいいかグループで話し合ってみましょう。

「これからの自分」を記入したプリントをもとに、今後、自分たちが性被害、特に携帯電話を利用した事件に巻き込まれないようにするにはどうしたらいいか話し合う。これから気をつけていくべきことを合言葉のように単語にし（例えば、知らないサイトにはアクセスしない・知らない人とは連絡を取らない・甘い言葉について行かない・情報をしっかり見分ける・自分を大切に→しない・取らない・行かない・見分ける・大切に…など）、言葉を短くすることで生徒同士が互いに気軽に注意を喚起しやすいようにする。

→略することでその言葉が身近になる。身近にすることで生徒の行動の抑制につながる。気軽に口にできることが印象的になり、ふとした時に思い出され、行動の抑制につながることで目的である。

導入10分、展開25分、まとめ10分

4. おわりに

本研究で提示した授業プランは、「知識を学ぶことが中心の展開」に対して、生徒への問いかけによる「考察中心の展開」である。これまでの実践の多くは、性犯罪の背景（件数や犯罪の起こりやすい時間帯について）が中心であり、不要だとは言わないまでも、その背景を学んだところで気をつけようのないことも多い。その意味で授業は、実生活で生かしていける内容で、かつ生徒自身が自分のこととして触発されるような展開が望ましい。すなわち、本研究で提示したプランは、現在の性犯罪において出会い系サイトの利用から起こる性被害がどのような仕組みで起こるのかを学べるように構成している。

具体的には、まず同年代の子どもが被害に合ったニュースを取り上げ、「身近なこと」、「自分にも降りかかるかもしれないこと」ととらえさせる必要がある。次に、犯罪の仕組みを知ること、自分が携帯電話を使用し、さまざまな情報に触れるときにどんなことに気をつければよいのかを考えるきっかけを与えるようにしている。また、授業プランは教師を含め、クラス全体で検討しながら進める展開を採用している。そして、最終的に犯罪に巻き込まれない最適な方法は、「犯罪に発

展する可能性があることには関わらない」ということであることにも気づかせたい。

いま、性犯罪に巻き込まれるきっかけは世の中に非常に多く存在する。常日頃から自分の意思をしっかりと持ち、中学生であっても、さまざまな情報に惑わされない判断力を身につけることが大切である。また、生徒自身が性犯罪に巻き込まれる可能性を自分のこととして捉え、被害者にならないためのスキルを身につけようとする姿勢を持たせたい。今後は、さらに今日的な実態をつぶさに分析し直し、早急に現場での実践につなげたいと考える。

5. 参考文献

- 1) 警察庁広報資料 平成21年8月6日
<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h21/pdf/50.pdf>
- 2) 1) 同
- 3) 1) 同
- 4) 財団法人 日本性教育協会 (1998) : 性教育新・指導要項 解説書pp174-175, 小学館
- 5) 1) 同
- 6) 1) 同
- 7) 中学校 学習指導要領 (平成15年12月, pp77-81)
- 8) 総務省 報道資料
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2006/061120_1.html (2010.2.11 現在)
- 9) 石野 純也 (2008) : ケータイチルドレン 子どもたちはなぜ携帯電話に没頭するのか? ソフトバンク新書 pp156-187
- 10) 藤川 大祐 (2008) : ケータイ世界の子供たち, 講談社現代新書 pp124-137
- 11) 産経デジタル イザ <http://www.iza.ne.jp/>

資料

これからの自分

() 組 名前: _____

これからどうしていったらいいか、自分の考えを書きましょう。

--

みんなで話し合ったことを標語にしてみましょう。

- ☆
- ☆
- ☆
- ☆
- ☆

〇〇クラスの被害防止標語！！
